

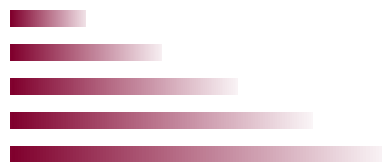


アイカ工業株式会社
2025年3月期 決算説明会



VALUE CREATION
3000 & 300

2025年5月26日
証券コード：4206



1. ハイライト

2. 2025年3月期 実績

3. 2025年3月期 セグメント別実績

4. 2026年3月期 計画

5. 2026年3月期 セグメント別計画

6. 資本政策・株主還元

7. 中期経営計画 “Value Creation 3000 & 300” の進捗

1. 2025年3月期 決算説明会 ハイライト

連結業績

- ✓ 売上高・営業利益・経常利益・当期純利益※¹は**過去最高を更新**
- ✓ 営業利益・経常利益は**4期連続増益**

化成品

- ✓ 国内：塗り床材、機能材料が好調
- ✓ 海外：AAPグループ※²は増収減益、EMCグループ※³は増収増益

建装建材

- ✓ 国内：**高付加価値商品を中心に伸長し、利益に大きく貢献**
- ✓ 海外：中国・ベトナムが低調、タイ・インドネシアは伸長

今期計画

- ✓ 経常利益は現中計目標を**1年前倒しで達成する計画**

資本政策

- ✓ 現中計の**ROE目標**「10%目処」を「**10%以上**」へ引き上げ
- ✓ 配当：2025/3期は14円増配に**上方修正**、2026/3期は10円**増配予定**
- ✓ 新たに60億円(225万株)を上限とする**自己株式取得を決定**

成長投資

- ✓ タカラインコーポレーション社の**株式取得**を基本合意

気候変動対応

- ✓ 2030年度のGHG排出量削減目標を30%から**42%へ引き上げ**

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 AAP：アイカ・アジア・パシフィック

※3 EMC：エバモア・ケミカル

1. ハイライト

2. 2025年3月期 実績

3. 2025年3月期 セグメント別実績

4. 2026年3月期 計画

5. 2026年3月期 セグメント別計画

6. 資本政策・株主還元

7. 中期経営計画 “Value Creation 3000 & 300” の進捗

2-1. 連結決算の概要



[百万円]

	2024/3期		2025/3期				
	実績	利益率	計画	実績	利益率	伸率	達成率
売上高	236,625	—	250,000	248,696	—	+5.1%	99.5%
営業利益	25,286	10.7%	27,200	27,408	11.0%	+8.4%	100.8%
経常利益	26,135	11.0%	28,300	28,668	11.5%	+9.7%	101.3%
当期純利益※	15,135	6.4%	16,200	16,896	6.8%	+11.6%	104.3%

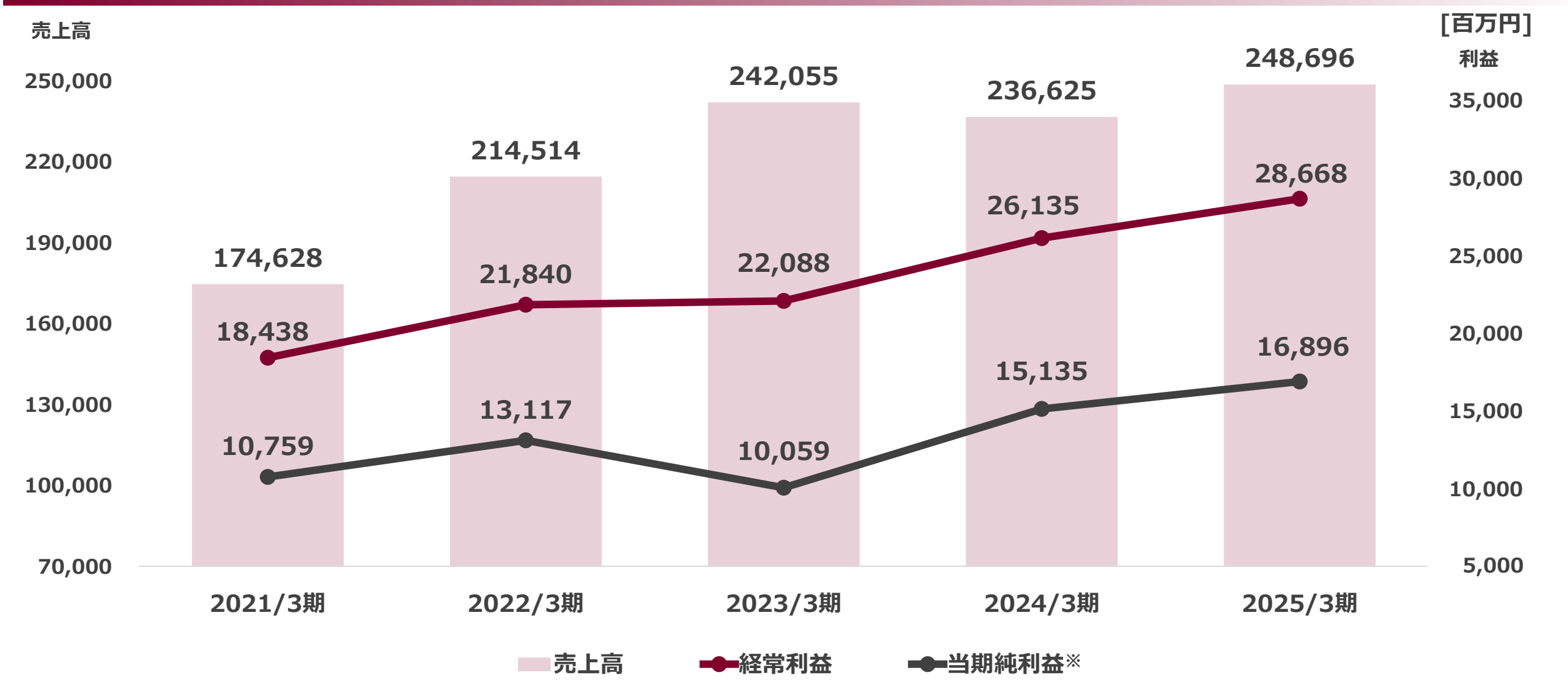
[円]

R O E	9.9%	—	9.6%	10.1%	—	—	—
一株当たり純利益	236.60	—	258.09	266.36	—	—	103.2%

売上高・営業利益・経常利益・当期純利益※は、いずれも過去最高を更新

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

2-2. 連結決算の推移



右肩上がりの成長を継続中（経常利益は4期連続増益）

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

2-3. セグメント別業績

[百万円]

	売上高			営業利益			
	2024/3期	2025/3期	伸率	2024/3期	2025/3期	伸率	
化成品	130,300	138,587	+6.4%	9,280	9,331	+0.6%	金額
				7.1%	6.7%	—	利益率
建装建材	106,325	110,109	+3.6%	20,339	22,535	+10.8%	金額
				19.1%	20.5%	—	利益率
(配賦不能営業費用)				△4,333	△4,458	—	金額
合計	236,625	248,696	+5.1%	25,286	27,408	+8.4%	金額
				10.7%	11.0%	—	利益率

建装建材の営業利益が大幅に伸長

2-4. 海外売上高



[億円]

	2024/3期 実績		2025/3期 実績		
	売上高	海外売上比率	売上高	伸率	海外売上比率
化成品	927.9	71.2%	995.0	+7.2%	71.8%
建装建材	202.4	19.0%	199.0	△1.7%	18.1%
合計	1,130.4	47.8%	1,194.1	+5.6%	48.0%

化成品海外と建装建材国内が大きく伸長した結果、海外売上比率は全体で48.0%

2-5. 【参考】主要項目の状況（連結）



[億円]

	2023/3期	2024/3期	2025/3期
研究開発費	39.9	40.7	44.0
減価償却費	67.9	70.4	79.1
設備投資額	86.9	93.6	92.1
借入金残高	125.2	115.1	110.8
自己資本比率	58.1%	58.9%	60.2%

1. ハイライト
2. 2025年3月期 実績
- 3. 2025年3月期 セグメント別実績**
4. 2026年3月期 計画
5. 2026年3月期 セグメント別計画
6. 資本政策・株主還元
7. 中期経営計画 “Value Creation 3000 & 300” の進捗

3-1. 化成品セグメント 商品群別売上実績



[億円]

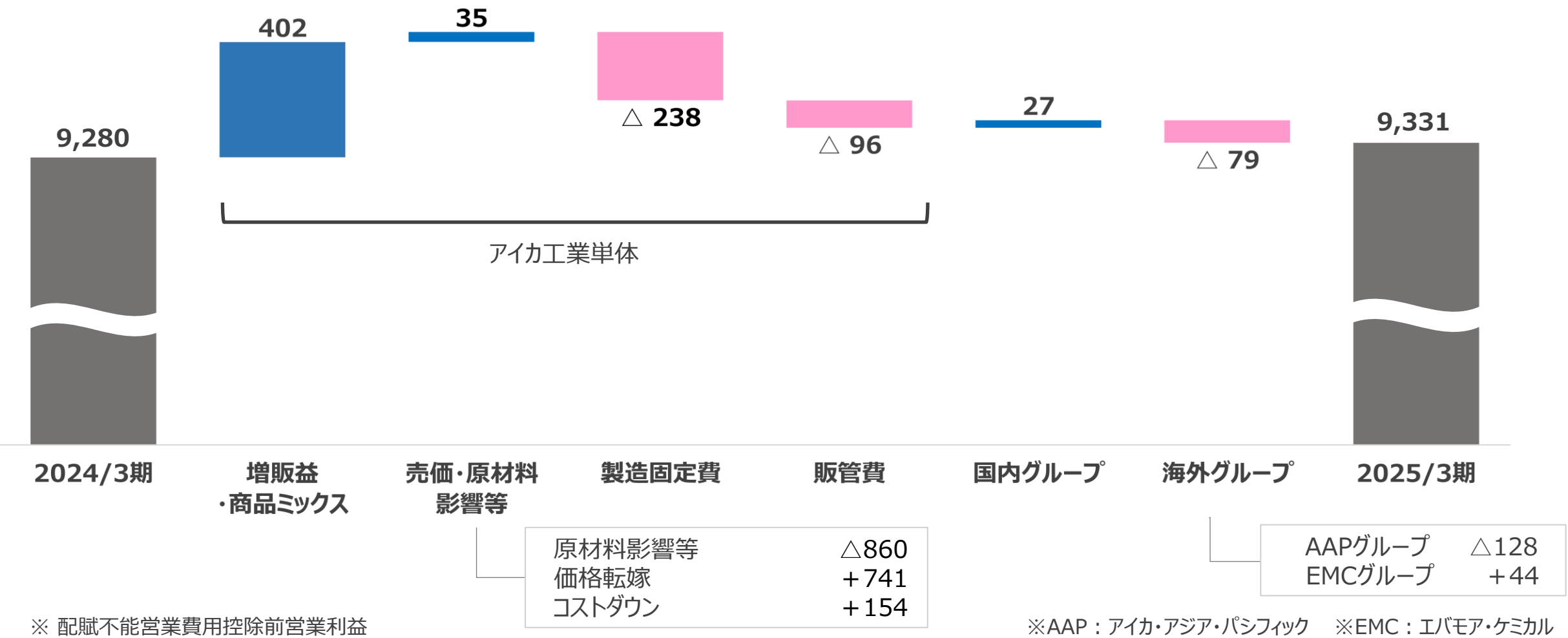
	2024/3期	2025/3期			
	実績	計画	実績	達成率	伸率
接 着 剤 (うちAAP※グループ)	919.4 (716.3)	970.0 (758.0)	958.9 (747.4)	98.9% (98.6%)	+4.3% (+4.3%)
建 設 樹 脂	103.1	110.0	109.7	99.7%	+6.3%
機 能 材 料	158.6	176.0	179.6	102.1%	+13.2%
そ の 他	121.7	126.0	137.5	109.2%	+13.0%
合 計	1,303.0	1,382.0	1,385.8	100.3%	+6.4%

すべての商品群で伸長（なかでも機能材料が好調）

※ AAP：アイカ・アジア・パシフィック

3-2. 化成品セグメント 営業利益実績

[百万円]

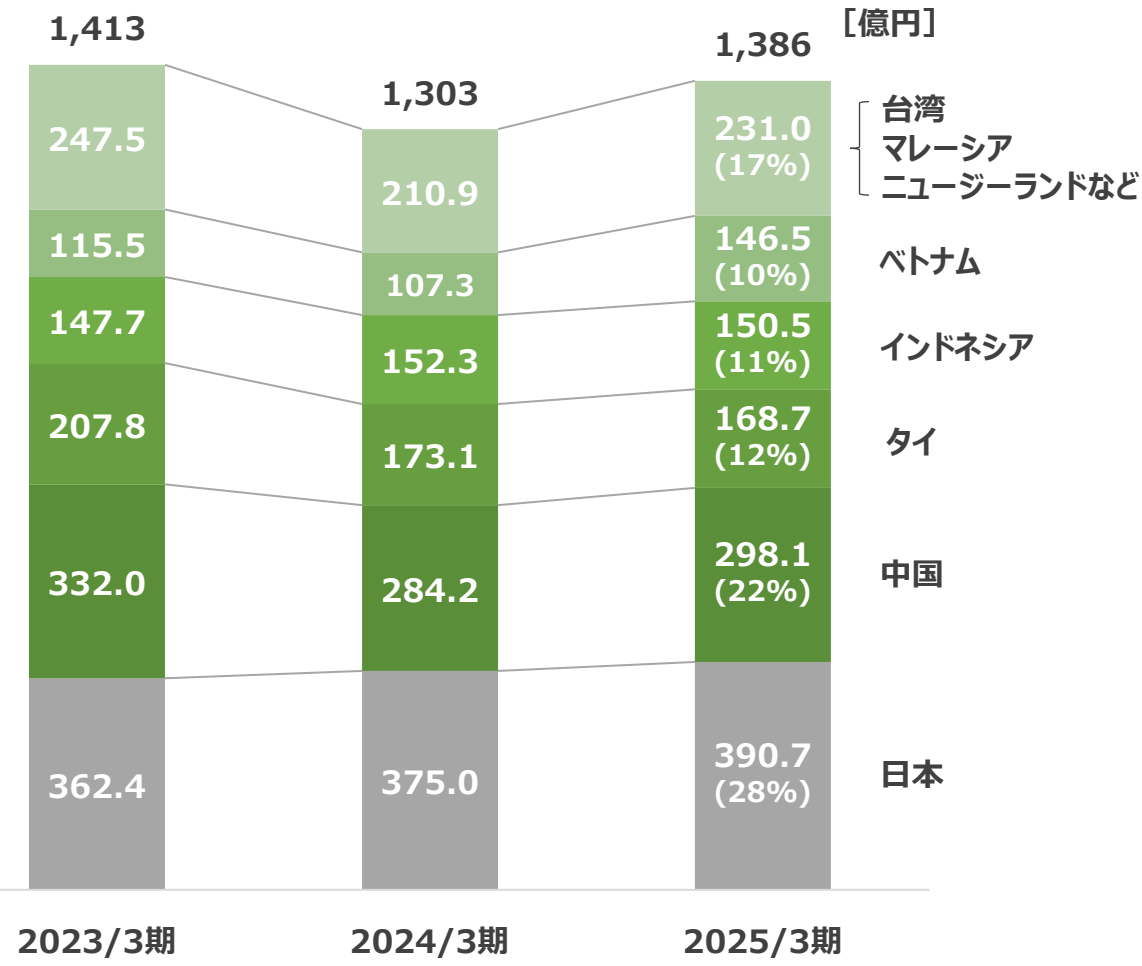


単体の増販益や商品ミックスの改善がセグメントの増益に寄与

3-3. 化成品セグメント 実績（海外）



国別売上実績

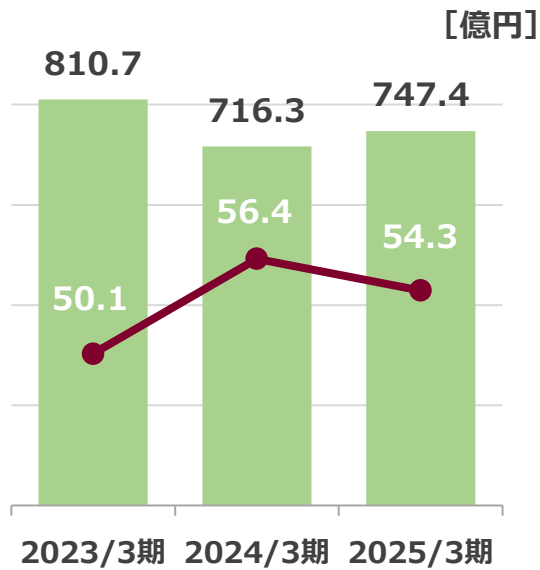


※()内は全体に占める割合

海外グループ業績推移

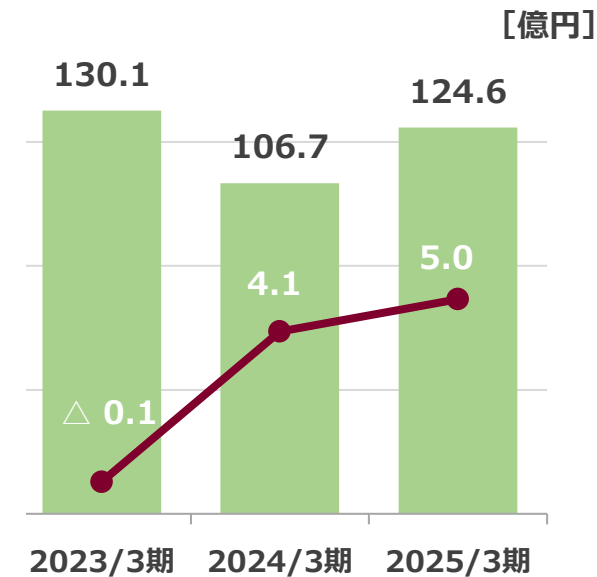
AAP※グループ

※ AAP : アイカ・アジア・パシフィック



EMC※グループ

※ EMC : エバモア・ケミカル



[連結取引消去前・のれん償却前]

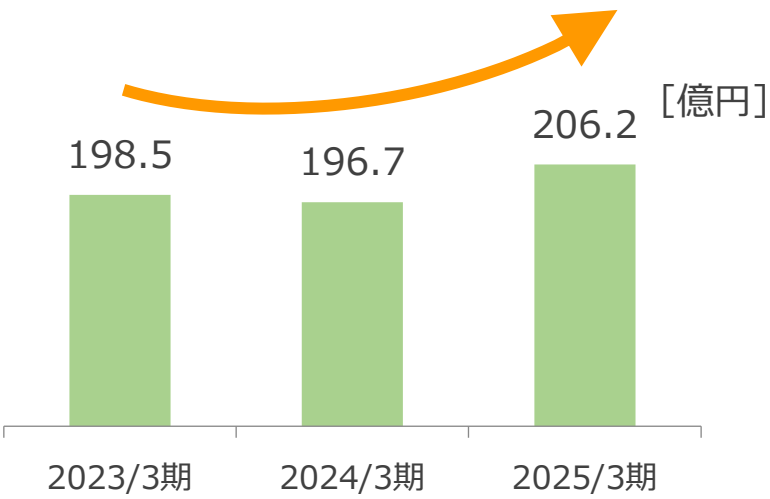
国別売上は中国、ベトナムなどで増加、EMCグループは増益

3-4. 化成品セグメント 売上実績（国内）



接着剤

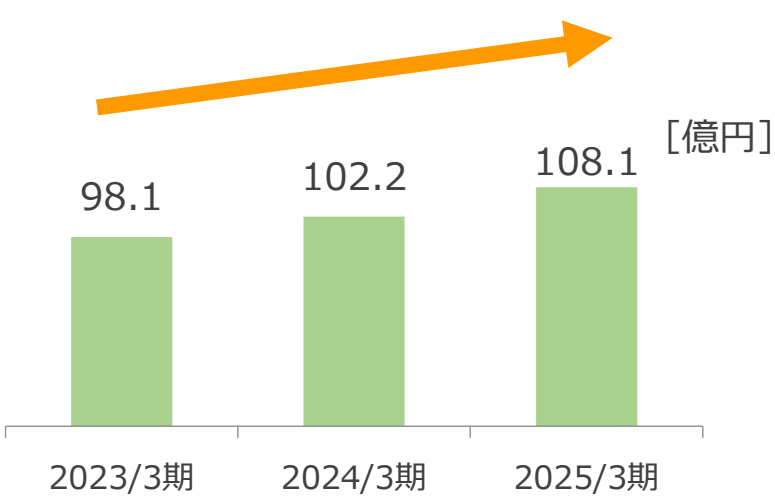
各種接着剤・フェノール樹脂など



- 自動車用のホットメルトが伸長
- 施工用接着剤や木工・家具用接着剤も堅調

建設樹脂

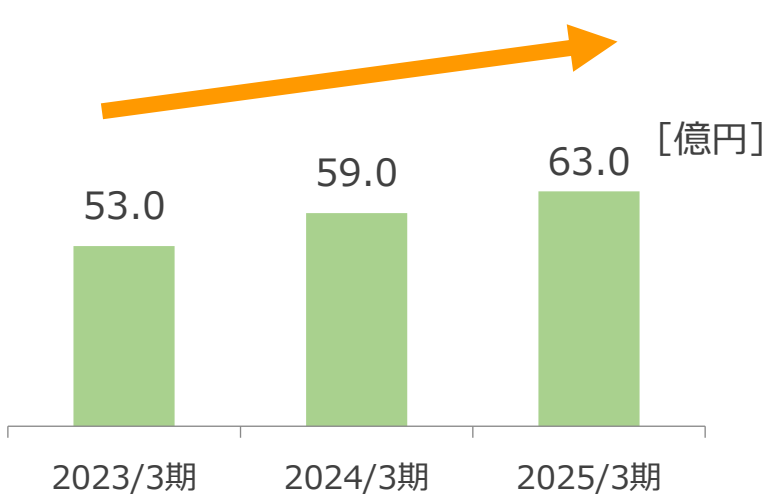
塗り壁材・塗り床材・補修補強材



- 塗り床材が半導体工場やデータセンターなどのニーズを捉え好調

機能材料

有機微粒子・UV硬化型樹脂など



- 電子材料用・自動車用の高機能フィルムや工業用の有機微粒子などが好調

3-5. 建装建材セグメント 商品群別売上実績

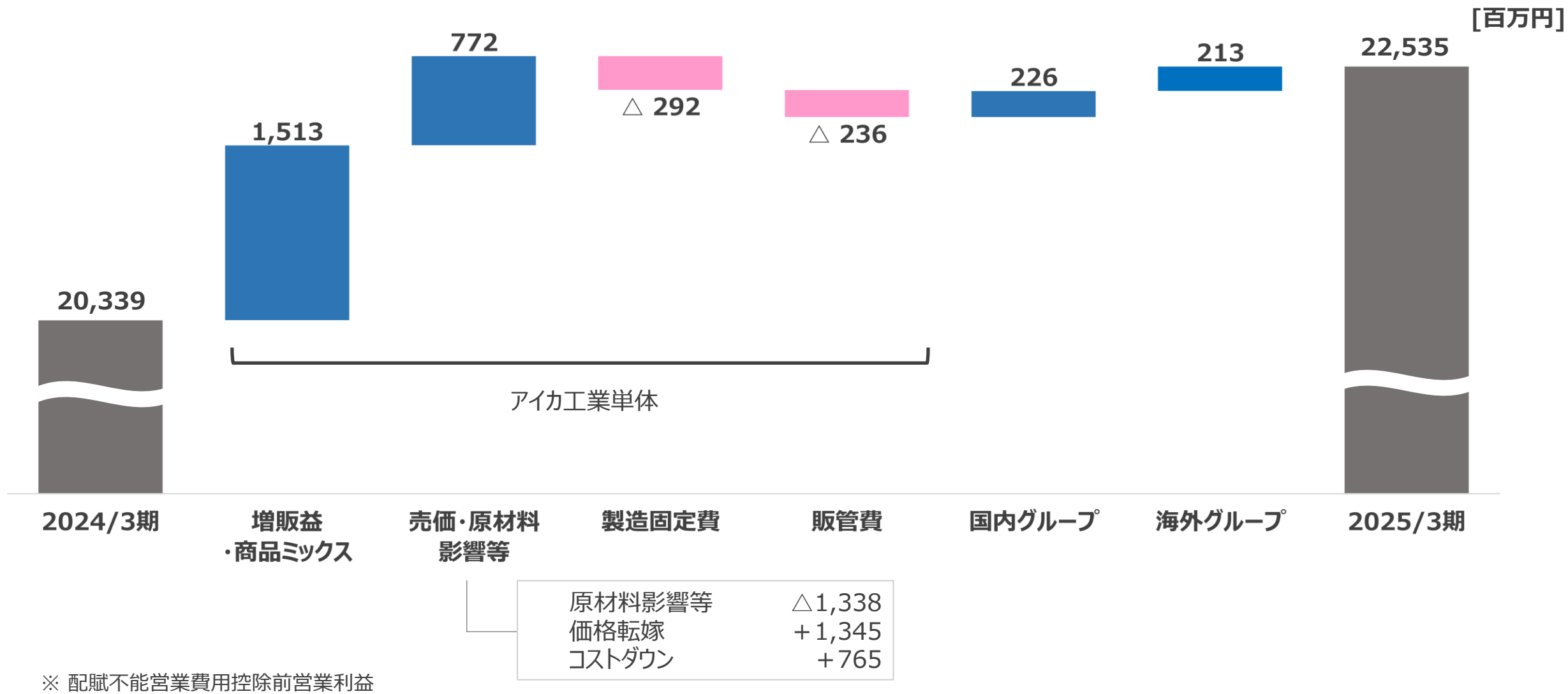


[億円]

	2024/3期	2025/3期			
	実績	計画	実績	達成率	伸率
メラミン化粧板	343.2	370.0	350.9	94.8%	+2.2%
ボード フィルム等	124.1	127.0	124.7	98.2%	+0.5%
セラール	232.5	243.0	237.7	97.8%	+2.2%
不燃建材	75.2	77.0	74.1	96.3%	△1.4%
住器建材	288.0	301.0	313.5	104.2%	+8.8%
合計	1,063.2	1,118.0	1,101.0	98.5%	+3.6%

「スマートサニタリー」の好調を背景に『住器建材』が大きく伸長

3-6. 建装建材セグメント 営業利益実績



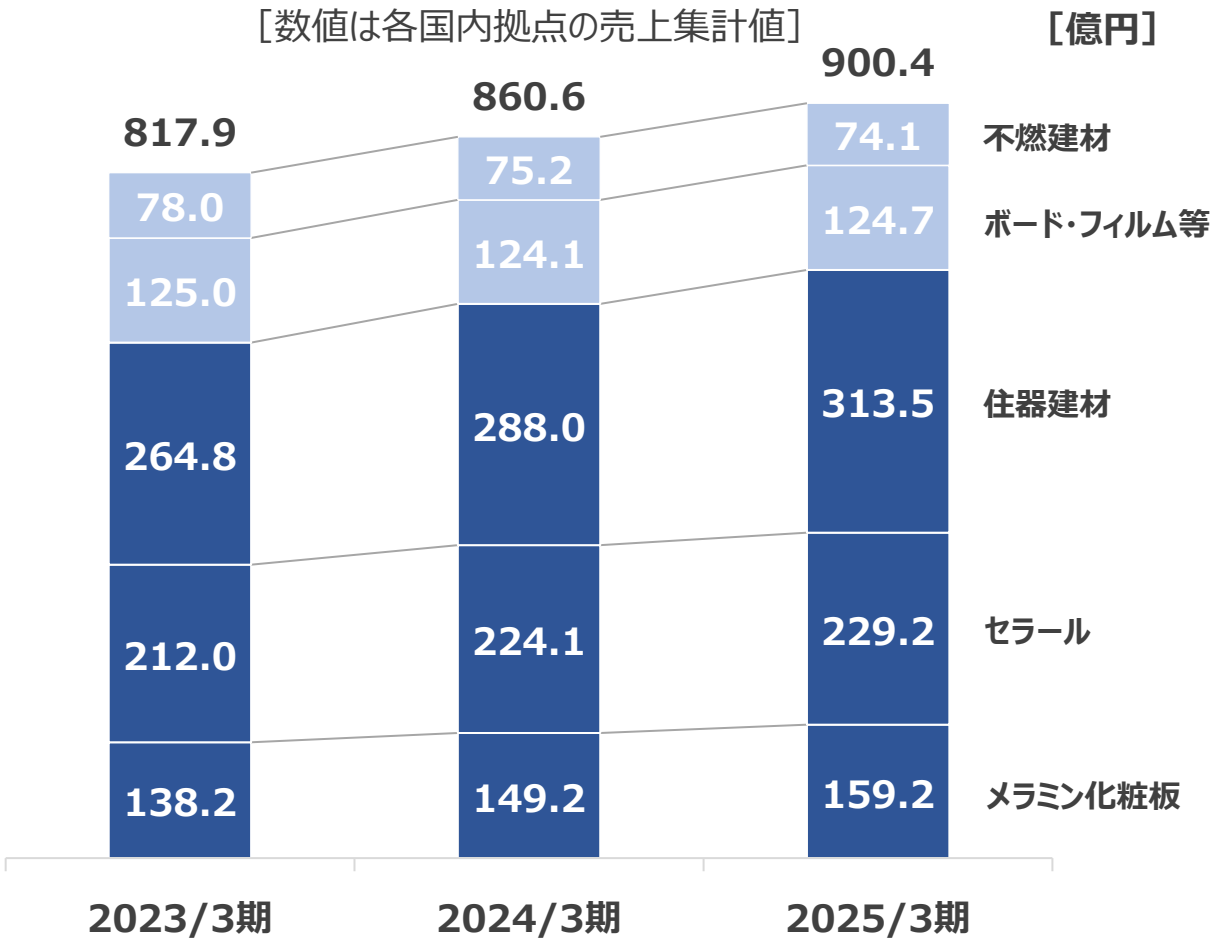
単体の増販益や商品ミックスの改善が大きく貢献、国内外グループも寄与

3-7. 建装建材セグメント 実績（国内）

国内建設市場（前年同期比）

	住宅	非住宅
新 築	△3.1%	△5.1%
※当社需要期へタイムラグ調整済み	(着工戸数)	(着工面積)
リフォーム・リニューアル	+0.5%	+5.5%
2024年1月～12月分	(受注高)	(受注高)

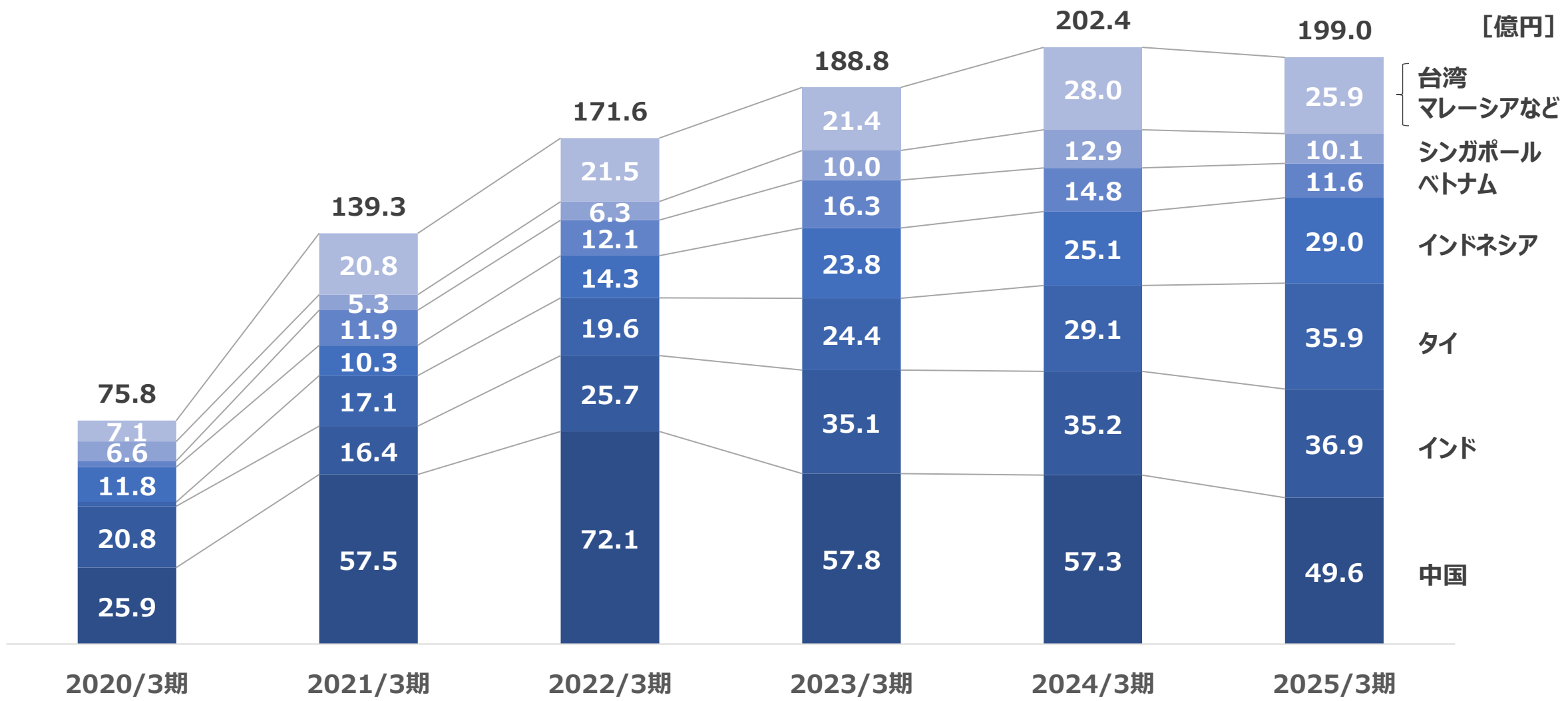
国内売上実績の推移



新築市場の低迷に対し、高付加価値商品※を中心に着実な成長が続く

※このスライドでは、メラミン化粧板、セラール、スマートサニタリー(住器建材の一部)を高付加価値商品と定義しています

3-8. 建装建材セグメント 国別売上実績（海外）



タイ・インドネシアは成長、中国・ベトナムは低迷

1. ハイライト
2. 2025年3月期 実績
3. 2025年3月期 セグメント別実績
- 4. 2026年3月期 計画**
5. 2026年3月期 セグメント別計画
6. 資本政策・株主還元
7. 中期経営計画 “Value Creation 3000 & 300” の進捗

国内建設市場

	住宅（着工戸数）	非住宅（着工面積）
2025年3月期（実績）	△3.1%	△5.1%
2026年3月期（予測）	△2.6%	△7.6%

※当社需要期へタイムラグ調整済み

海外市場

東南アジアは引き続き堅調なGDP成長が期待される一方、中国の不動産市場低迷や米国関税の影響といったリスクが依然として残る。

為替換算レート

2025年3月期（実績）	1USD = 151.43円
2026年3月期（予測）	1 USD = 143.00円

※各国通貨建てのため、ドル建ての子会社は数社のみ

国産ナフサ価格

2025年3月期（実績）	75,500円/kl
2026年3月期（予測）	69,000円/kl

※すべての原材料がナフサに連動するわけではない

4-2. 2026年3月期 通期計画



[百万円]						
	2025/3期 実績		2026/3期 計画			対前期
	金額	利益率	金額	利益率	伸率	増減額
売上高	248,696	—	265,000	—	+6.6%	+16,304
営業利益	27,408	11.0%	29,000	10.9%	+5.8%	+1,592
経常利益	28,668	11.5%	30,000	11.3%	+4.6%	+1,332
当期純利益※	16,896	6.8%	18,300	6.9%	+8.3%	+1,404
						[円]
ROE	10.1%	—	10%以上	—	—	—
一株当たり純利益	266.36	—	291.55	—	—	—

※親会社株主に帰属する当期純利益

売上高・利益ともに過去最高を計画、経常利益は中計1年前倒しの300億円を計画

4-3. 2026年3月期 通期セグメント別計画

[百万円]

	売上高			営業利益			
	2025/3期 実績	2026/3期 計画	伸率	2025/3期 実績	2026/3期 計画	伸率	
化成品	138,587	145,600	+5.1%	9,331	9,900	+6.1%	金額
				6.7%	6.8%	—	利益率
建装建材	110,109	119,400	+8.4%	22,535	23,900	+6.1%	金額
				20.5%	20.0%	—	利益率
(配賦不能営業費用)				△4,458	△4,800	—	金額
合 計	248,696	265,000	+6.6%	27,408	29,000	+5.8%	金額
				11.0%	10.9%	—	利益率

両セグメントともに、過去最高の売上高・営業利益を計画

4-4. 2026年3月期 中間期セグメント別計画

[百万円]

	売 上 高			営 業 利 益			
	2025/3期 中間期実績	2026/3期 中間期計画	伸率	2025/3期 中間期実績	2026/3期 中間期計画	伸率	
化 成 品	67,571	69,750	+3.2%	4,619	4,760	+3.1%	金額
				6.8%	6.8%	－	利益率
建装建材	52,569	56,850	+8.1%	10,518	11,000	+4.6%	金額
				20.0%	19.4%	－	利益率
(配賦不能営業費用)				△1,990	△2,160	－	金額
合 計	120,140	126,600	+5.4%	13,147	13,600	+3.4%	金額
				10.9%	10.7%	－	利益率

中間期においても、過去最高の売上高・営業利益を計画

1. ハイライト
2. 2025年3月期 実績
3. 2025年3月期 セグメント別実績
4. 2026年3月期 計画
- 5. 2026年3月期 セグメント別計画**
6. 資本政策・株主還元
7. 中期経営計画 “Value Creation 3000 & 300” の進捗

5-1. 化成品セグメント 商品群別売上計画



[億円]

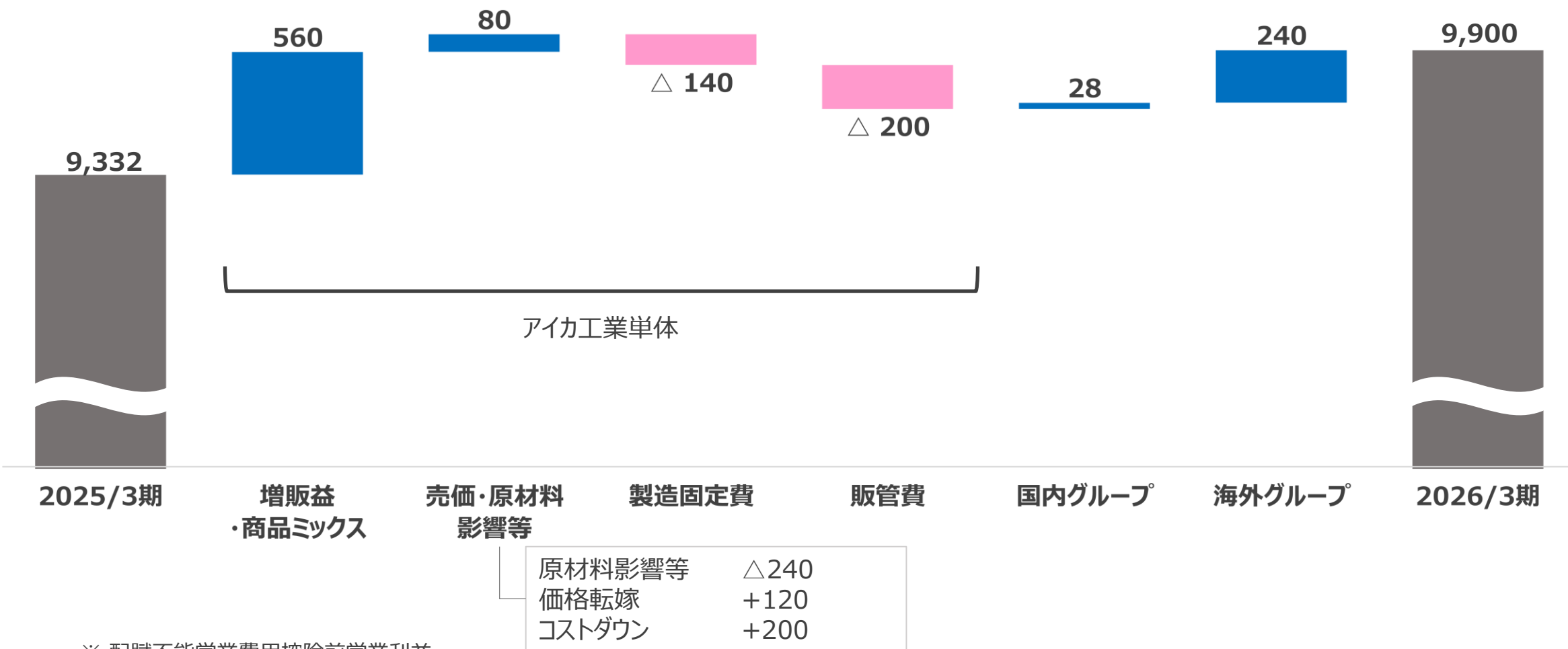
	2025/3期（実績）		2026/3期（計画）			
	中間期	通期	中間期	伸率	通期	伸率
接 着 剤 (うちAAP※グループ)	464.4 (360.1)	958.9 (747.4)	480.0 (372.0)	+3.4% (+3.3%)	1,003.0 (782.0)	+4.6% (+4.6%)
建 設 樹 脂	52.9	109.7	55.0	+3.9%	115.0	+4.8%
機 能 材 料	89.3	179.6	91.5	+2.4%	195.0	+8.5%
そ の 他	69.0	137.5	71.0	+2.9%	143.0	+4.0%
合 計	675.7	1,385.8	697.5	+3.2%	1,456.0	+5.1%

※ AAP：アイカ・アジア・パシフィック

接着剤は通期で1,000億円以上を計画、他商品群も含めすべて前年以上を計画

5-2. 化成品セグメント 営業利益計画

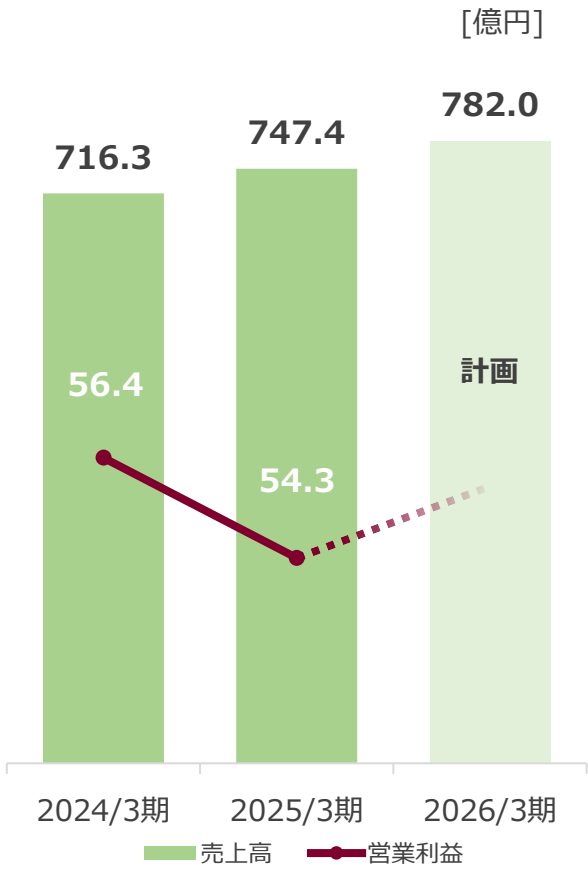
[百万円]



アイカ工業単体の増販益や商品ミックス改善に加え、グループ会社も伸長で増益を計画

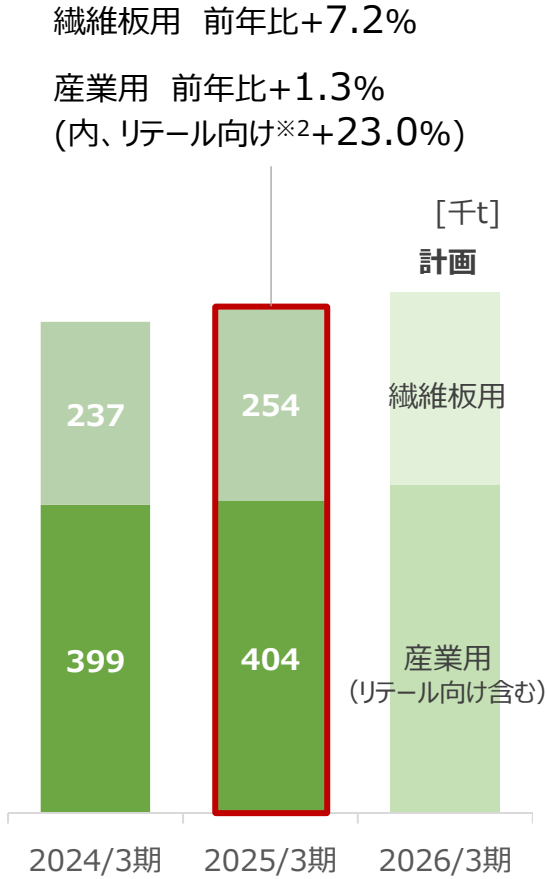
5-3. 化成品セグメント 方策（海外 AAPグループ）

AAP※1グループ業績



※1 AAP : アイカ・アジア・パシフィック

樹脂別販売量



※2 リテール向け : 小売店や工務店などに向けた小分け製品

地域	方策
中国	市況低迷でも販売量確保、福建工場立ち上げ・広東新工場稼働率向上でトップライン引上げ
タイ	市況悪化による販売量減少を、ADBS※3連結効果・クエンボン工場フル稼働で打消し
インドネシア	リテール向け好調維持、ADBS※3とのシナジー効果加速
マレーシア	シンガポール工場の代替生産拠点先として繊維板用・産業用ともに拡大
ベトナム	品質・顧客対応力で繊維板用を維持・拡大 米国関税政策による影響には留意

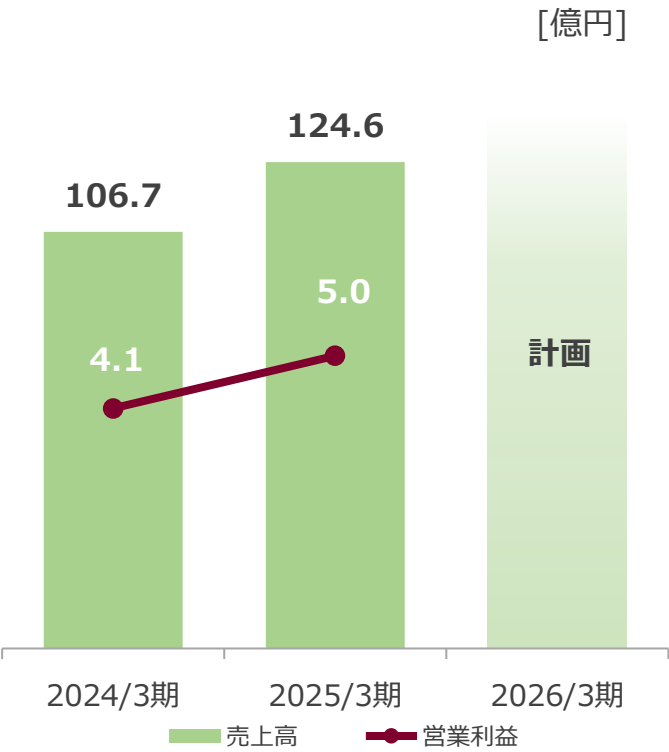
※3 ADBS : ADBシーラント

付加価値の高いリテール向けを伸ばし、商品ミックス改善で利益成長を目指す

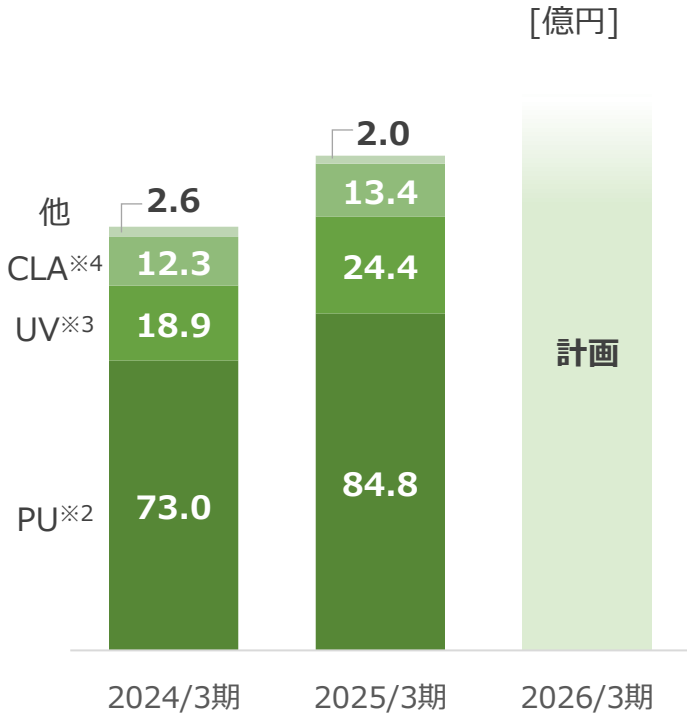
5-4. 化成品セグメント 方策（海外 EMCグループ）

EMC※1グループ業績

[連結取引消去前・のれん償却前]



樹脂別売上高



主要製品

方策

PU※2	【シューズ用】 シューズ需要回復に伴い伸長
	【PUR-HM※5】 高付加価値商品が伸び、利益貢献 東南アジア展開や日本とのシナジーで成長
UV※3	パッケージ用や保護フィルム向けなどで成長
CLA※4	台湾・日本向け強化、受注増加

※1 EMC：エバモア・ケミカル

※2 PU：ウレタン系樹脂
(テキスタイル用、シューズ用、建築用接着剤など)

※3 UV：UV硬化型樹脂
(パッケージ用、ハードコート用など)

※4 CLA：架橋剤
(接着剤向け、塗料向けなど)

※5 PUR-HM：反応型ウレタンホットメルト

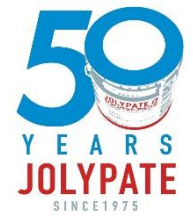
PUR-HMの新製品投入と販路開拓や、UV硬化型樹脂の拡販でさらなる成長を目指す

5-5. 化成品セグメント 方策（国内グループ）

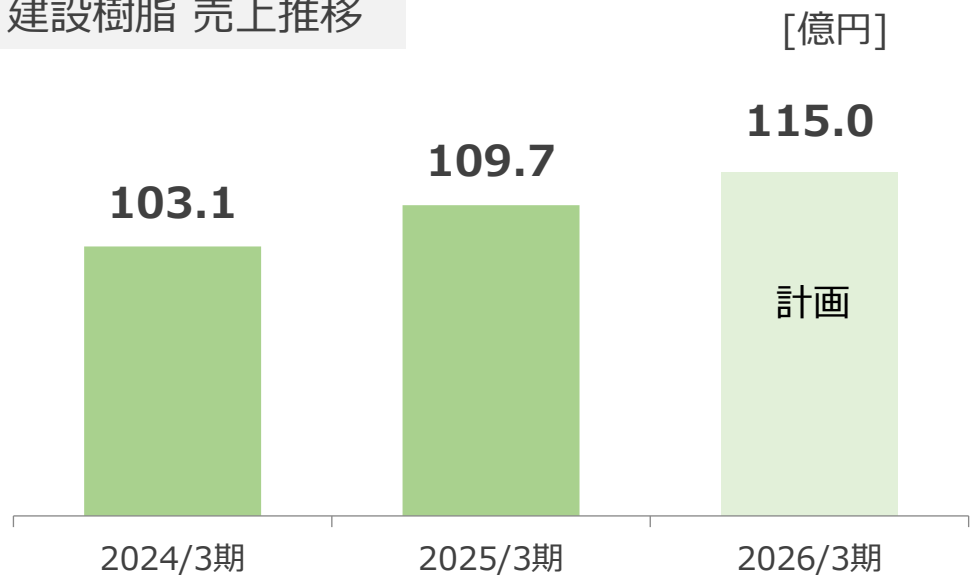
建設樹脂

塗り床材 豊富なラインナップと高い品質で工場向け需要獲得

塗り壁材 発売から50周年を迎えた「ジョリパット」や高付加価値商品の「クライマテリア」を拡大



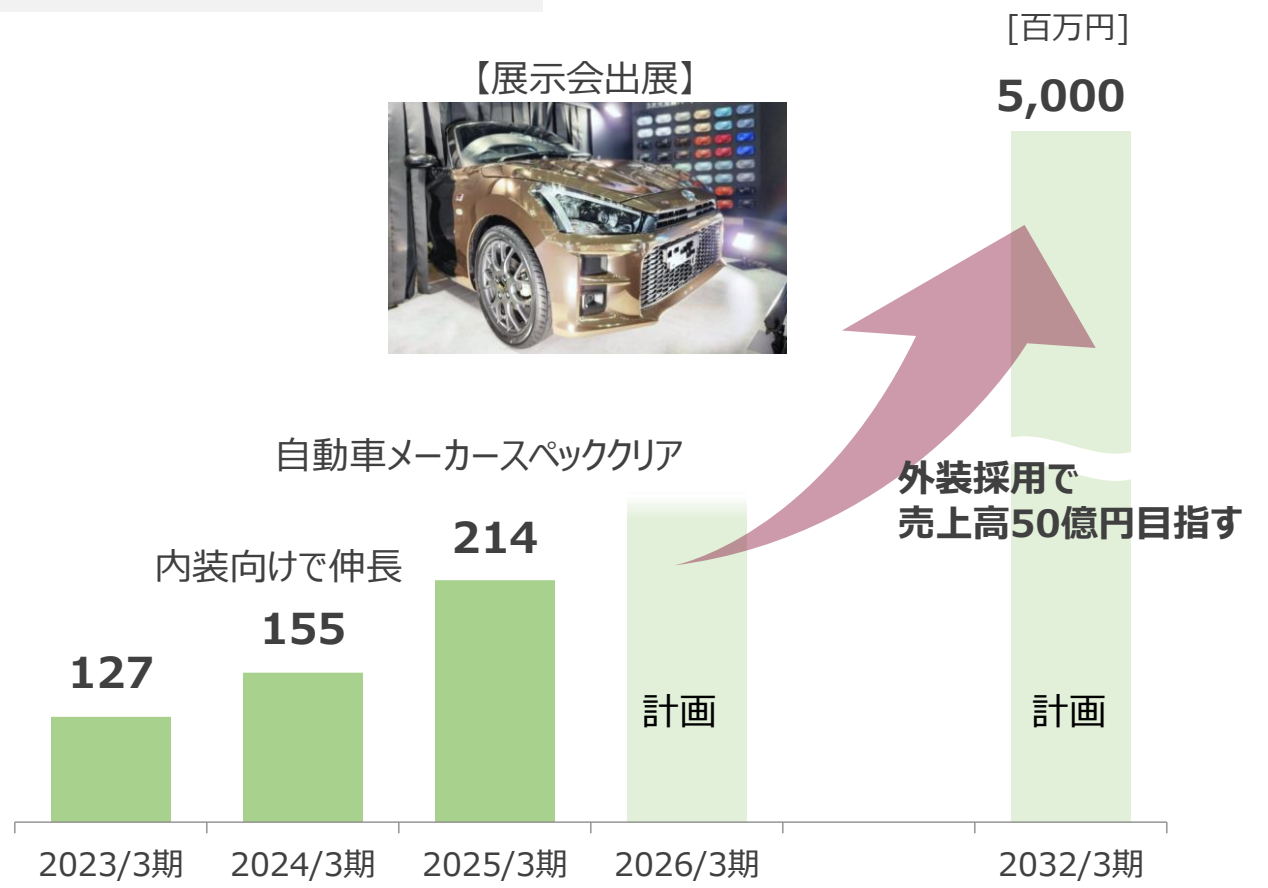
建設樹脂 売上推移



機能材料 3次元加飾フィルム

3次元加飾フィルム 売上推移

【展示会出展】



豊富なラインアップと高付加価値商品を強化、安定成長から飛躍へ

5-6. 建装建材セグメント 商品群別売上計画



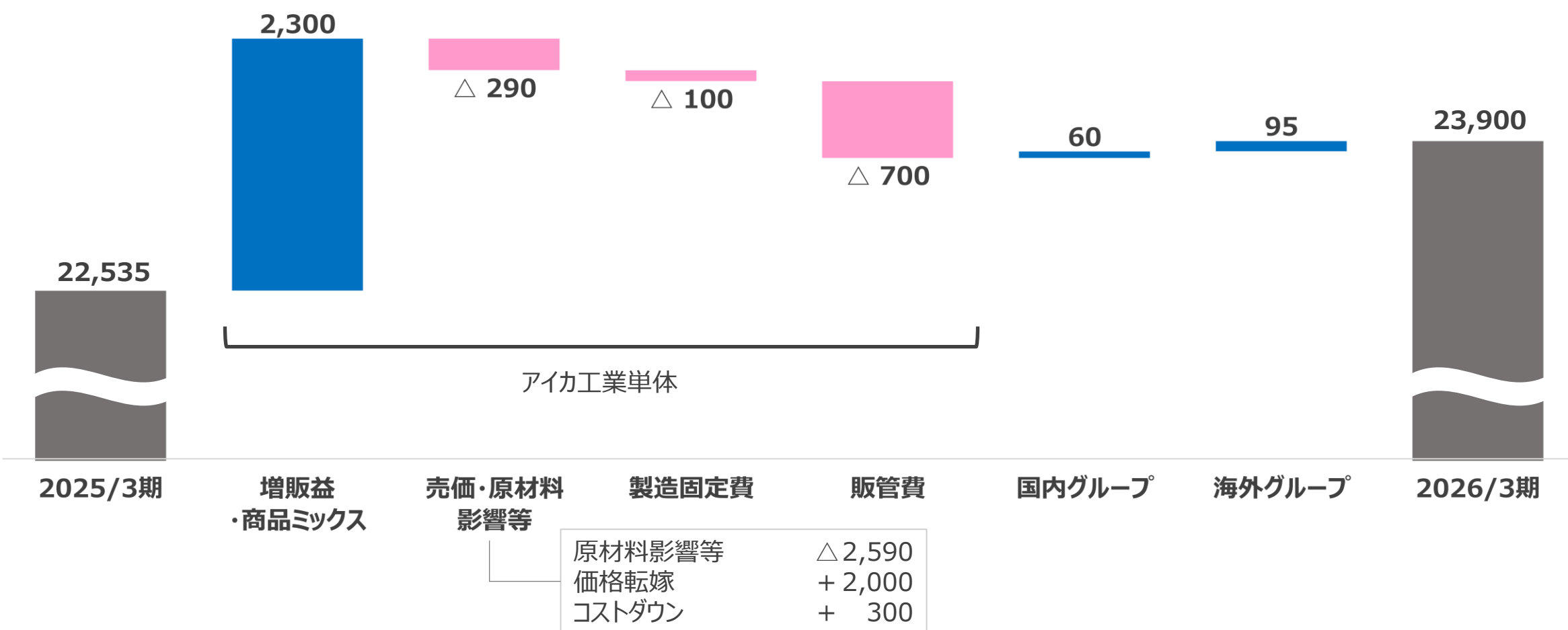
[億円]

	2025/3期（実績）		2026/3期（計画）			
	中間期	通期	中間期	伸率	通期	伸率
メラミン化粧板	167.0	350.9	178.0	+6.6%	375.0	+6.9%
ボ ー ド フイルム等	60.9	124.7	65.5	+7.4%	134.0	+7.5%
セ ラ ー ル	114.3	237.7	123.0	+7.6%	257.0	+8.1%
不 燃 建 材	36.4	74.1	39.0	+7.0%	79.0	+6.5%
住 器 建 材	146.8	313.5	163.0	+11.0%	349.0	+11.3%
合 計	525.6	1,101.0	568.5	+8.1%	1,194.0	+8.4%

全商品群で通期前年以上、住器建材は前年比10%以上の伸長を計画

5-7. 建装建材セグメント 営業利益計画

[百万円]



※ 配賦不能営業費用控除前営業利益

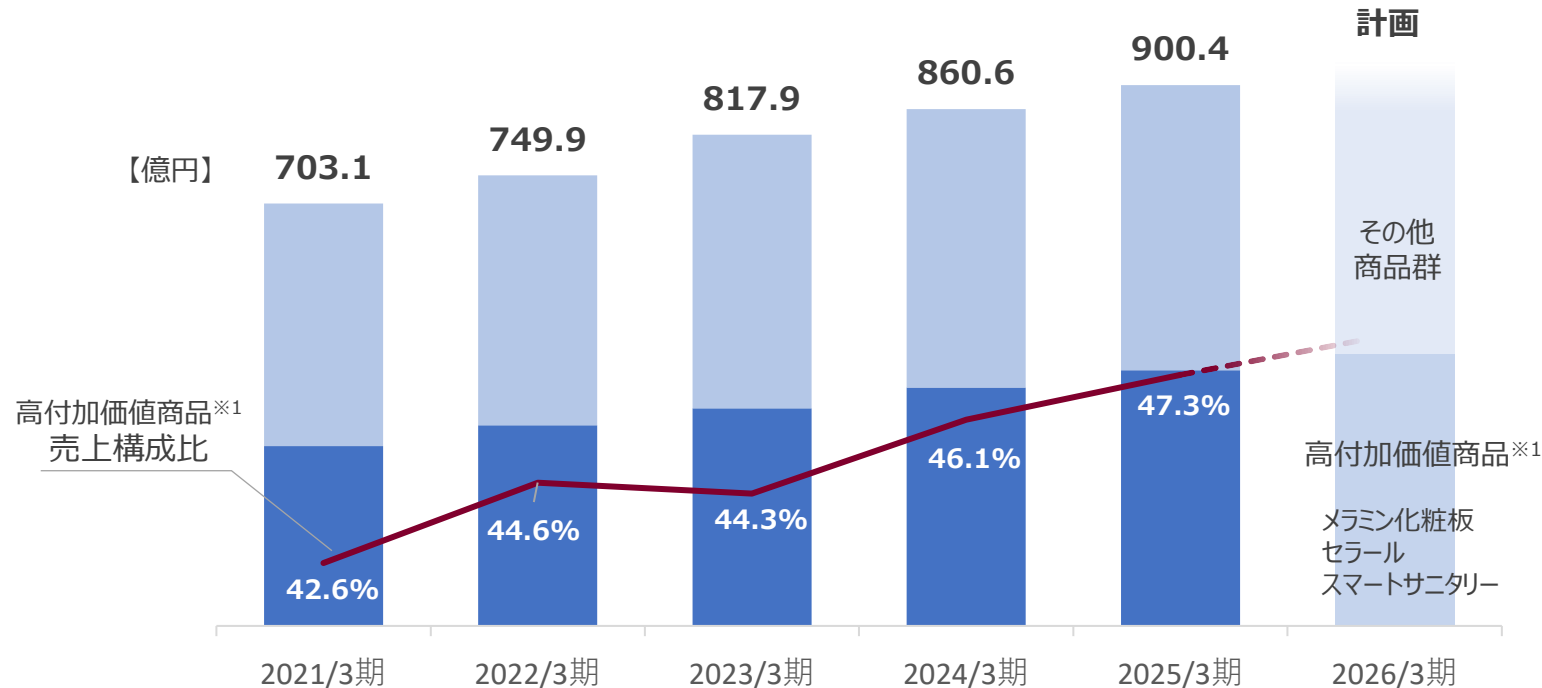
原材料影響をアイカ工業単体の増販益・商品ミックス改善で跳ね返し増益を計画

5-8. 建装建材セグメント 方策（国内）

利益率の高い建装建材国内事業の中でも、利益をけん引している
スマートサニタリー、セラール セレント、メラミンタイルなどの注力商品が大きく伸長

建装建材国内 売上高推移

注力商品を含む高付加価値商品※¹（メラミン化粧板、セラール、スマートサニタリー）の構成比拡大

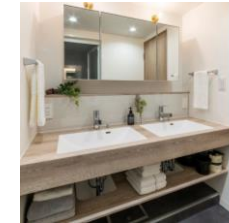


注力商品

※2 < >内、商品群

スマートサニタリー

<住器建材> ※2



オーダーメイドのような
高い自由度と意匠性が好評

(25/3期 売上前年比 +56%)

セラール セレント

<セラール> ※2



本物の意匠を持ちながら、
施工性の良さが特徴

(25/3期 売上前年比 +45%)

メラミンタイル

<メラミン化粧板> ※2



汚れにくく、お手入れが簡単
メラミン化粧板ならではの意匠と
強度を兼ね備えた商品

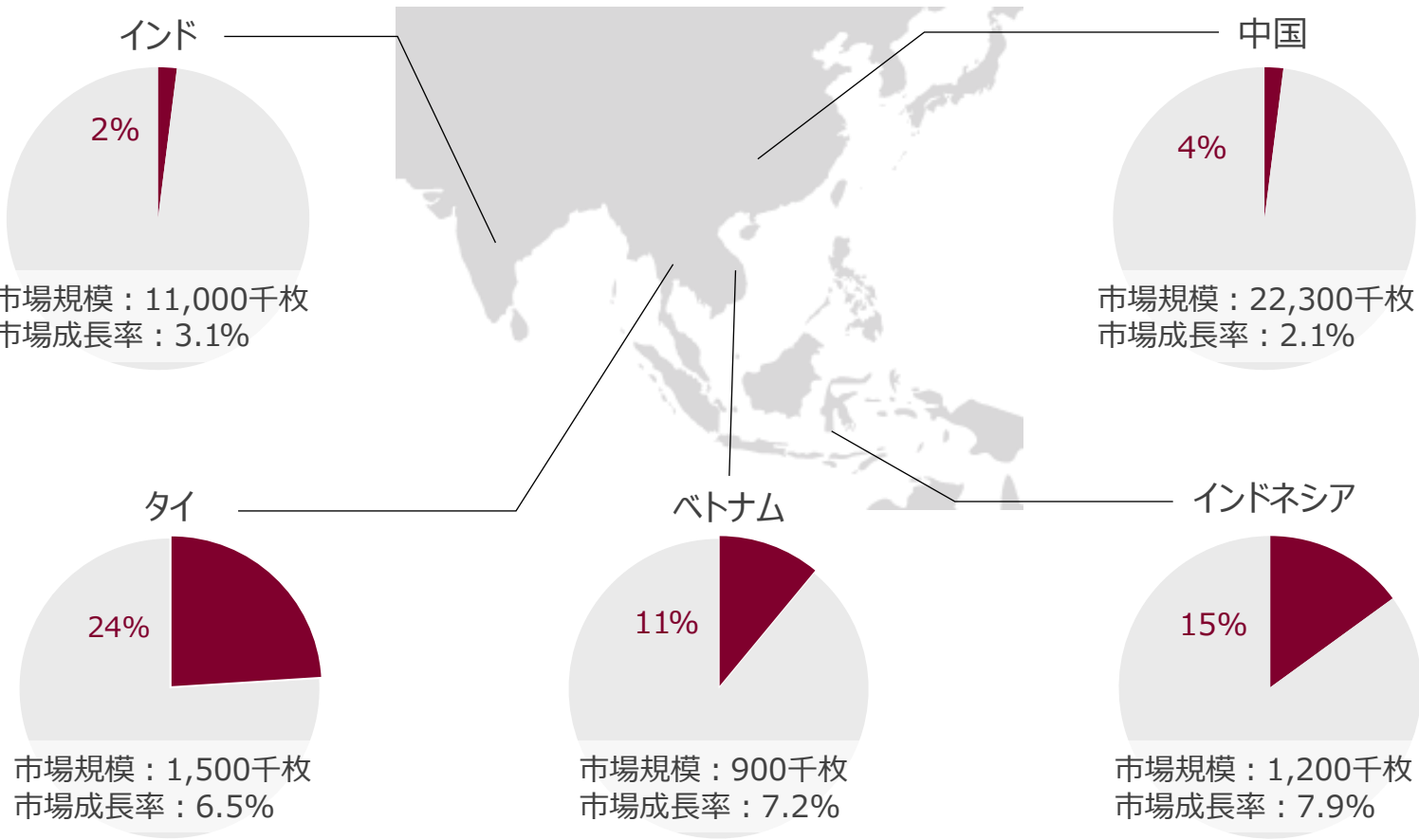
(25/3期 売上前年比 +43%)

利益をけん引する注力商品の伸長で更なる成長を目指す

※1 このスライドでは、メラミン化粧板、セラール、スマートサニタリー(住器建材の一部)を高付加価値商品と定義しています

5-9. 建装建材セグメント 方策（海外）

主要地域 市場規模およびシェア



※市場規模：2023年実績ベース、4x8換算枚数

※市場成長率：2023年～2031年（予測）の年平均成長率

地域	方策
インド	高品質を武器にブランド浸透を推進 市場平均を上回る成長軌道を描く
中国	技術優位な不燃化粧板を軸に 回復・成長
タイ	高シェア・強固なブランド力活用 付加価値提案で市場以上の成長
ベトナム	市況回復の追い風を捉え、 前年以上のスピードで回復・成長
インドネシア	ハイエンドへのシフトを加速 セラール増販で収益拡大

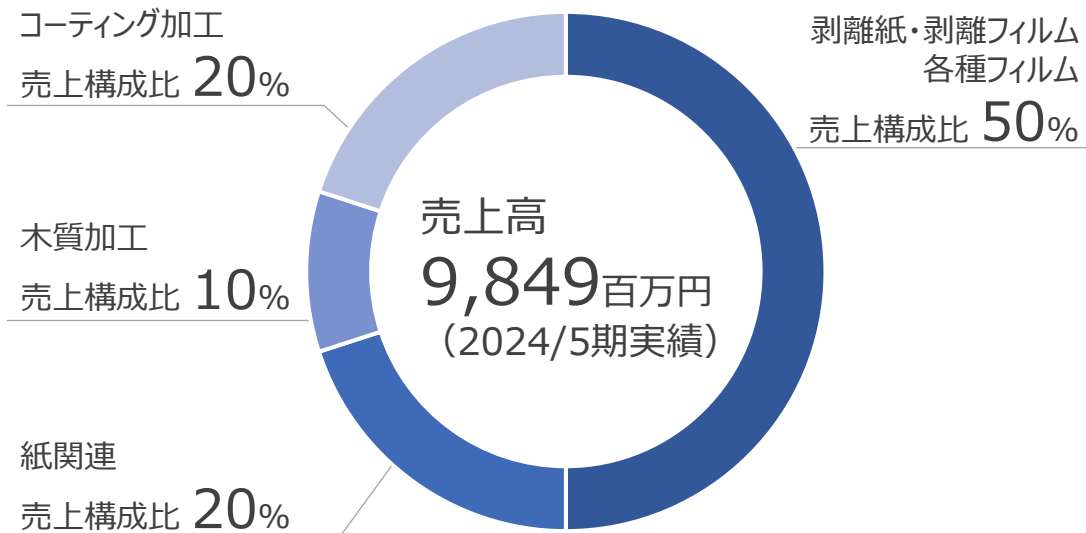
高成長市場でハイエンド製品を軸に、市場平均を上回る成長を目指す

5-10. M&A タカラインコーポレーション

子会社化に向けた資本提携の基本合意を締結

タカラインコーポレーションのアイカグループへの加入により、
化成品と建装建材でシナジーを発揮し、商品競争力強化

タカラインコーポレーション 会社概要



営業利益 569百万円 (2024/5期実績)

シナジー

【アイカ工業】

UV硬化型樹脂
粘着剤

【タカラインコーポレーション】

コーティング技術
フィルム加工

高付加価値商品
(機能フィルム等)

スケジュール

	2025/5月	6月	7月	8月	9月
株式取得の基本合意書締結日	完了 (5/1)				
株式交付計画承認			予定		
タカラインコーポレーション 株式譲渡の申込期日				予定	
株式交付の効力発生日					予定

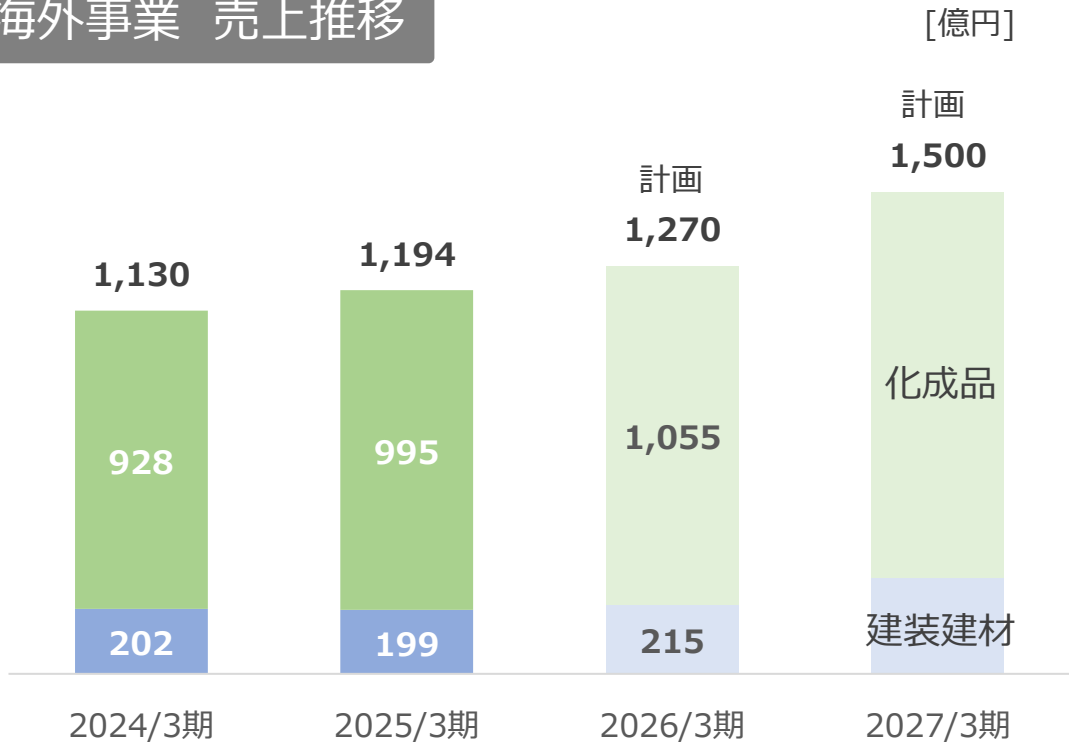
化成品・建装建材、両セグメントでシナジー発揮し、商品競争力強化

5-11. 海外事業

海外事業カンパニー設立（2025年4月）

海外事業の成長加速のため、海外事業カンパニーを立ち上げ海外における化成品と建装建材のシナジー最大化を図る

海外事業 売上推移



方策	
シナジー	・ メラミン化粧板の原材料であるフェノール樹脂を化成品のAAPが供給
	・ 家具メーカー向け化粧板と接着剤のセット販売
化成品	・ 中国・タイ等での設備投資・成長投資の早期軌道化と利益貢献
	・ 建設樹脂の海外展開
建装建材	・ 物件向けと代理店向けのバランスの取れた販売構成を構築
	・ アイカブランドの価値向上
M&A	・ 北米・インドを中心としたM&Aの模索

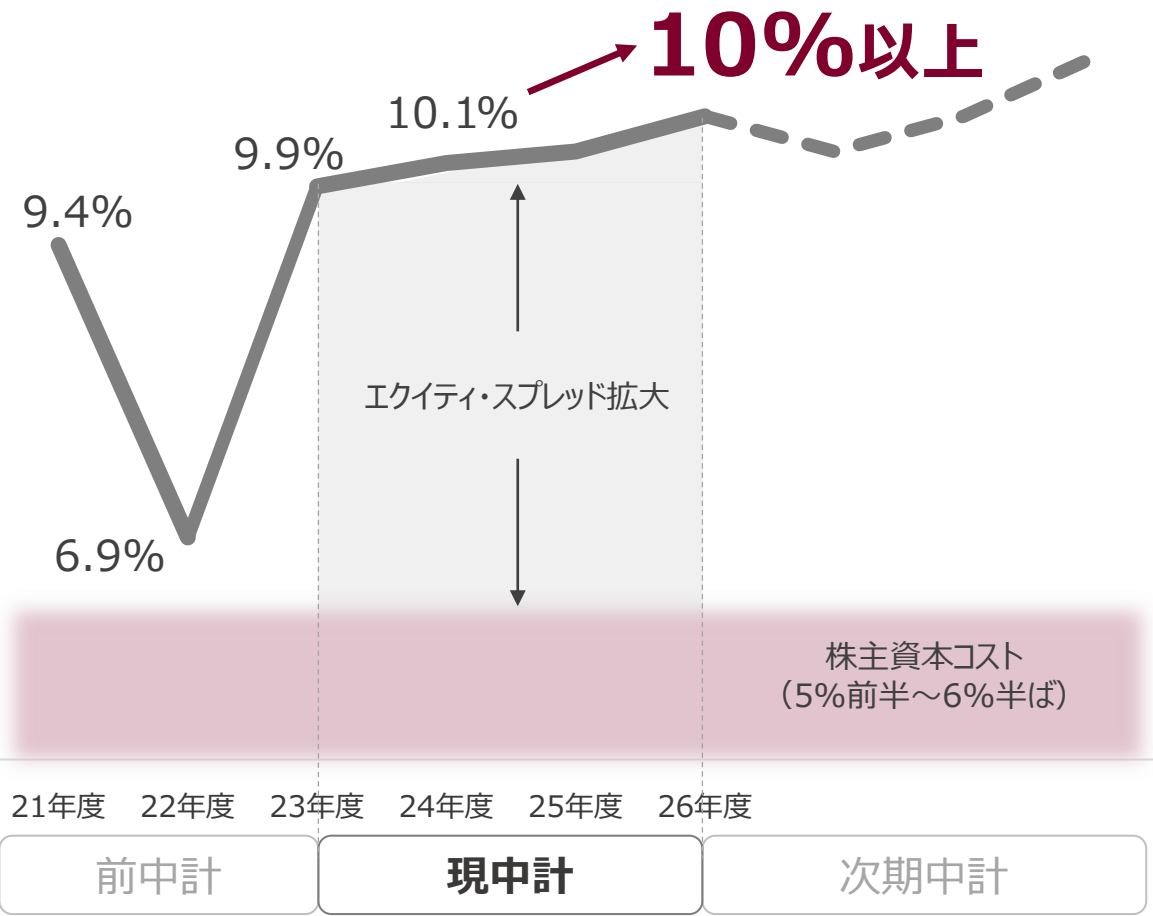
シナジー最大化し、海外事業を再び成長軌道へ

1. ハイライト
2. 2025年3月期 実績
3. 2025年3月期 セグメント別実績
4. 2026年3月期 計画
5. 2026年3月期 セグメント別計画
- 6. 資本政策・株主還元**
7. 中期経営計画 “Value Creation 3000 & 300” の進捗

		2023/3期 (実績)	方針	2024/3期 (実績)	2025/3期 (実績)
財務健全性の 維持	現預金残高	509.9億円	手元流動性を月商の2～3ヵ月分程度確保し、 リスク耐性を強化	620.2億円	595.7億円
	自己資本比率 格付※	58.1% 格付 A	適格な格付と50%以上の自己資本比率を維持	58.9% 格付 A+	60.2% 格付 A+
資本効率の 向上	ROE ROIC	ROE 6.9% ROIC 8.1% 株主資本コスト 6.3% WACC 5.5%	ROE> ROIC> WACCの構造 資本コストを上回るROE・ROICの創出 ・ROEの設定目標10%以上 ・ROICの設定目標9%以上	ROE 9.9% ROIC 8.9% 株主資本コスト 6.2% WACC 5.6%	ROE 10.1% ROIC 9.6% 株主資本コスト 6.5% WACC 5.7%
	FCF	107.9億円	積極的な成長投資と株主還元の向上を支える FCFの確保	209.0億円	156.3億円

※ 株式会社日本格付研究所(JCR)

ROE推移 (実績・計画)

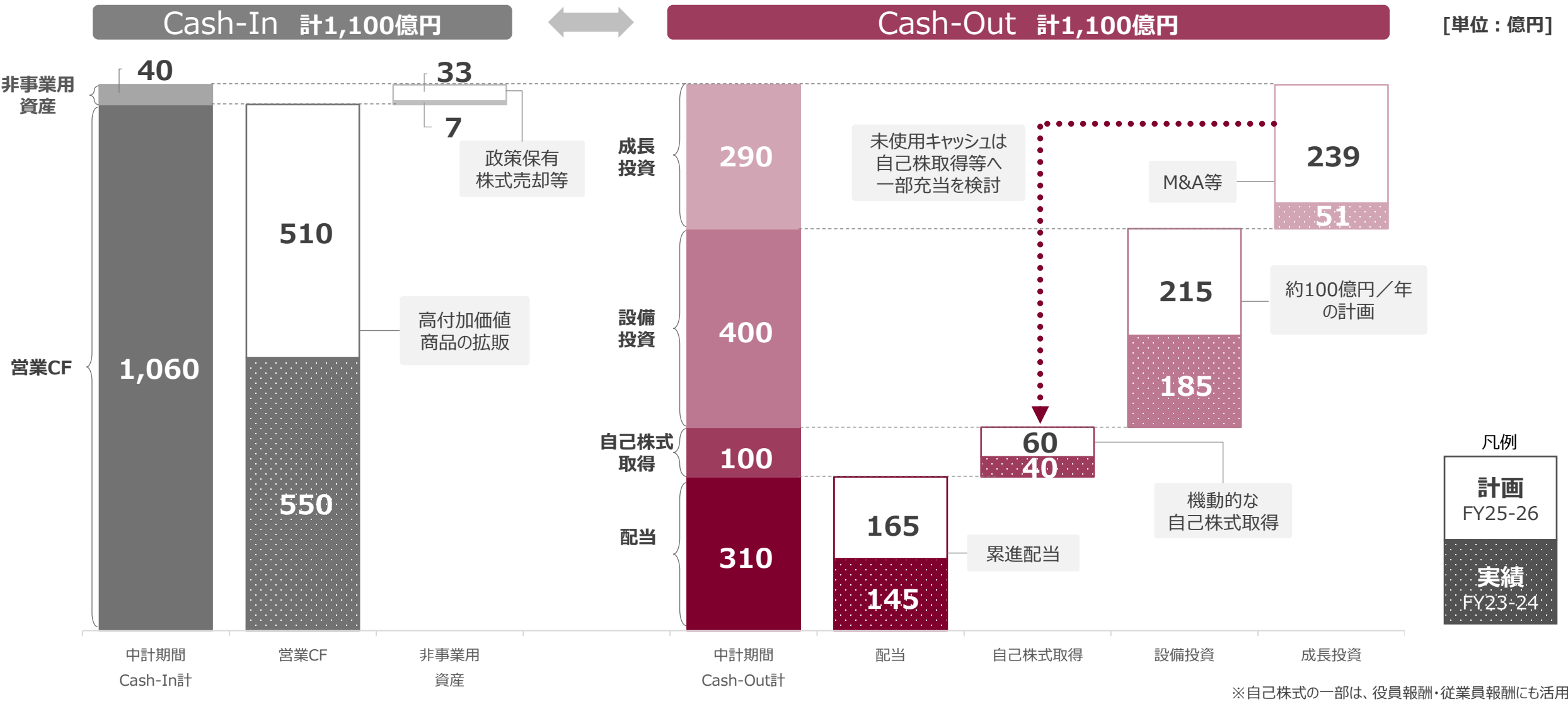


方 策

利益成長	収益構造強化	高付加価値品への集中や、不採算事業・商品の見直しにより採算性向上
	成長投資	将来の利益拡大に向け、重点分野への戦略的成長投資の推進
	生産性改善	DXを活用した業務効率化、生産性向上を推進
資本効率向上	資産効率化	在庫の適正化、債権圧縮等、ROICを用いたグループ会社管理により資産効率を向上
	政策保有株縮減	縮減を進め、売却資金は成長投資や設備投資、株主還元を活用
	自己資本最適化	財務規律を堅守しつつ、成長と還元を支える柔軟かつ最適な資本構成の追及
	株主還元の充実	累進配当の方針継続に加え、還元重視の配当性向も意識し、現中計で自己株100億円超の株主還元を実施

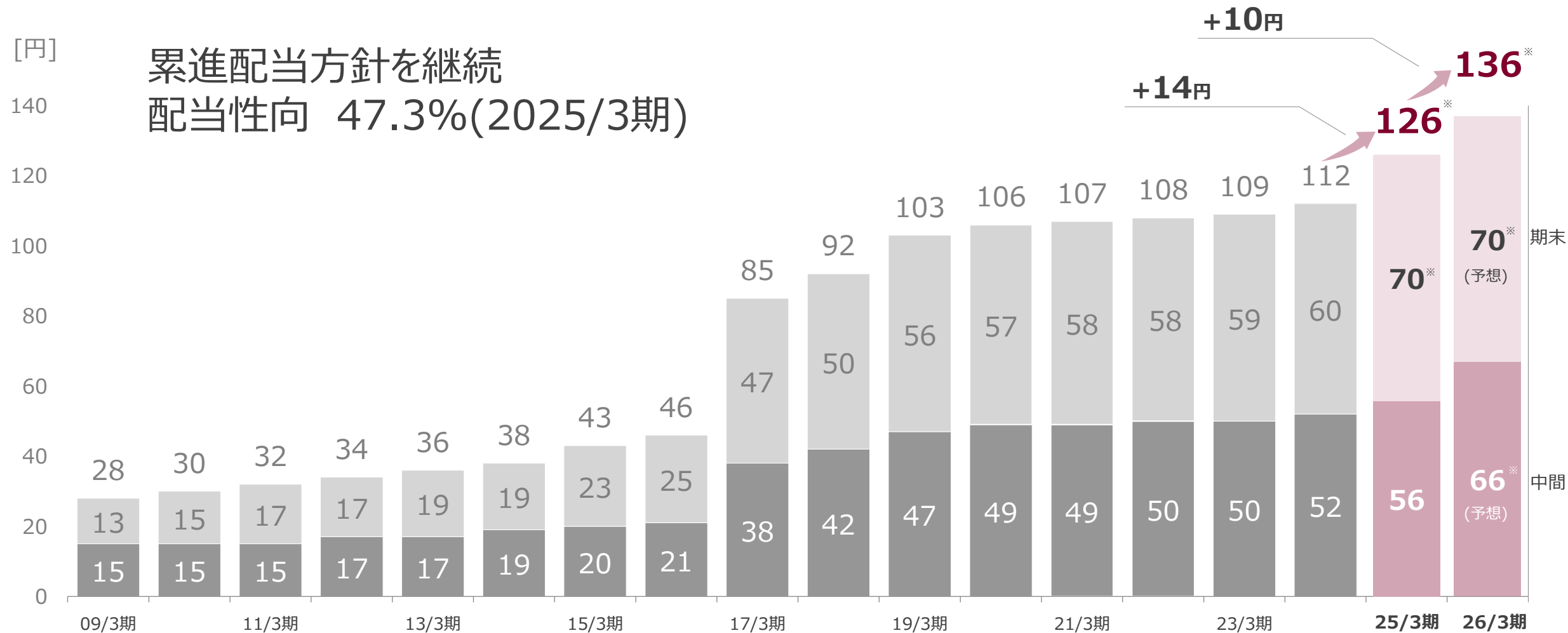
利益成長と資本効率向上で
現中計のROE目標『10%目処』を『10%以上』に見直し

6-3. 資本政策 キャッシュアロケーション（FY23-26）



今後2年間（FY25-26）は、株主還元も成長投資も拡大させていく計画

6-4. 資本政策 配当



※2025年3月期の配当は、正式には6月開催予定の株主総会で決定します。2026年3月期の配当は、現時点の予想値です。

16期連続増配、27期連続減配なし (25/3期まで)

1. ハイライト
2. 2025年3月期 実績
3. 2025年3月期 セグメント別実績
4. 2026年3月期 計画
5. 2026年3月期 セグメント別計画
6. 資本政策・株主還元
- 7. 中期経営計画 “Value Creation 3000 & 300” の進捗**

7-1. 中期経営計画の進捗（財務目標）



[億円]

	前中計	1年目	2年目	3年目	4年目
	2023/3期 (実績)	2024/3期 (実績)	2025/3期 (実績)	2026/3期 (計画)	2027/3期 (計画)
売上高	2,420	2,366	2,486	2,650	3,000
経常利益	220	261	286	300	300
A S 商品※1売上高※2	193	217	241	270	280
海外売上高比率	51.2%	47.8%	48.0%	48.0%	50%以上
ROE	6.9%	9.9%	10.1%	10%以上	上方修正
ROIC	8.1%	8.9%	9.6%	9%以上	上方修正

※1 AICA Solution 商品の略。様々な社会課題を解決する商品 ※2 アイカ工業単体

7-2. 中期経営計画の進捗（セグメント別目標）

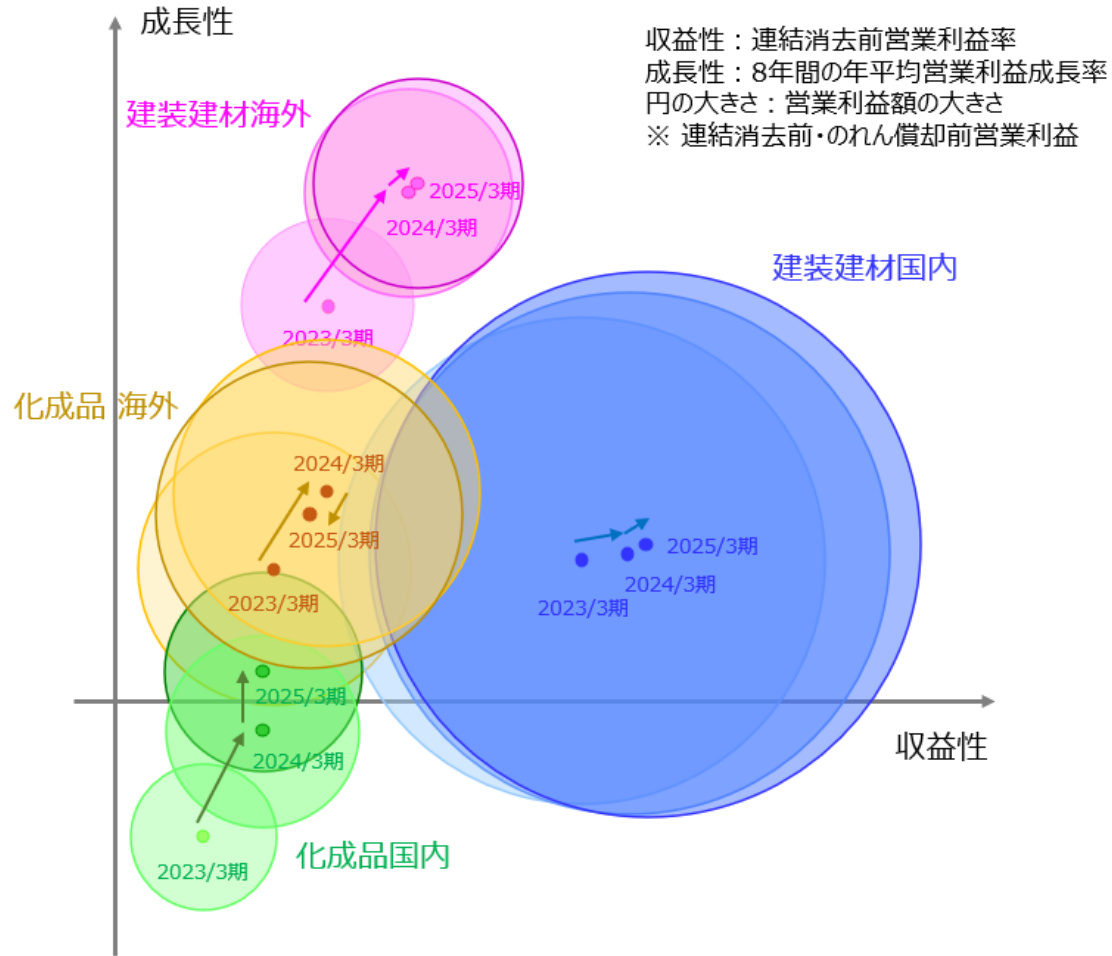
[百万円]

		前中計	1年目	2年目		3年目	4年目
		2023/3期 (実績)	2024/3期 (実績)	2025/3期 (実績)	伸率	2026/3期 (計画)	2027/3期 (修正計画)
化成品	売上高	141,312	130,300	138,587	+6.4%	145,600	163,000
	営業利益	7,494	9,280	9,331	+0.6%	9,900	10,500
	営業利益率	5.3%	7.1%	6.7%	—	6.8%	6.4%
	EBITDA	11,119	13,406	14,202	+5.9%	14,900	15,800
	EBITDA率	7.9%	10.3%	10.2%	—	10.2%	9.7%
建装建材	売上高	100,743	106,325	110,109	+3.6%	119,400	137,000
	営業利益	16,740	20,339	22,535	+10.8%	23,900	25,000
	営業利益率	16.6%	19.1%	20.5%	—	20.0%	18.2%
	EBITDA	19,910	23,254	26,460	+13.8%	27,500	28,900
	EBITDA率	19.8%	21.9%	24.0%	—	23.0%	21.1%

※ 連結消去後、配賦不能営業費用控除前

7-3. 中期経営計画の進捗（収益性の改善）

■ 事業別の収益性と成長性の比較



■ 2年間（2024/3期～2025/3期）の進捗まとめ

セグメント	進捗
化成品国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年目は、樹脂別の採算管理を徹底し、商品統廃合、適正な売価設定などにより、収益性を大きく改善。 ・ 2年目は、収益性を維持しつつ成長性が向上。
化成品海外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年目は、フェノール樹脂、ホットメルトなどの高付加価値商品の拡大により、収益性が大きく向上。 ・ 2年目は、設備投資に伴う減価償却費の増加、タイの市場低迷や価格競争などにより、収益性が減少。
建装建材国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ AS商品などの高付加価値商品、メラミン化粧板、セラール等の高利益率商品の拡販により、2年続けて収益性が向上。
建装建材海外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年目は、設備投資による生産効率向上、グループ全体での生産最適化等により、収益性を大きく改善。 ・ 2年目は、中国不況の影響を受けるも、東南アジア各国の奮闘により収益性はわずかに伸長。

化成品海外の収益性改善が急務、建装建材は2期連続で収益性向上

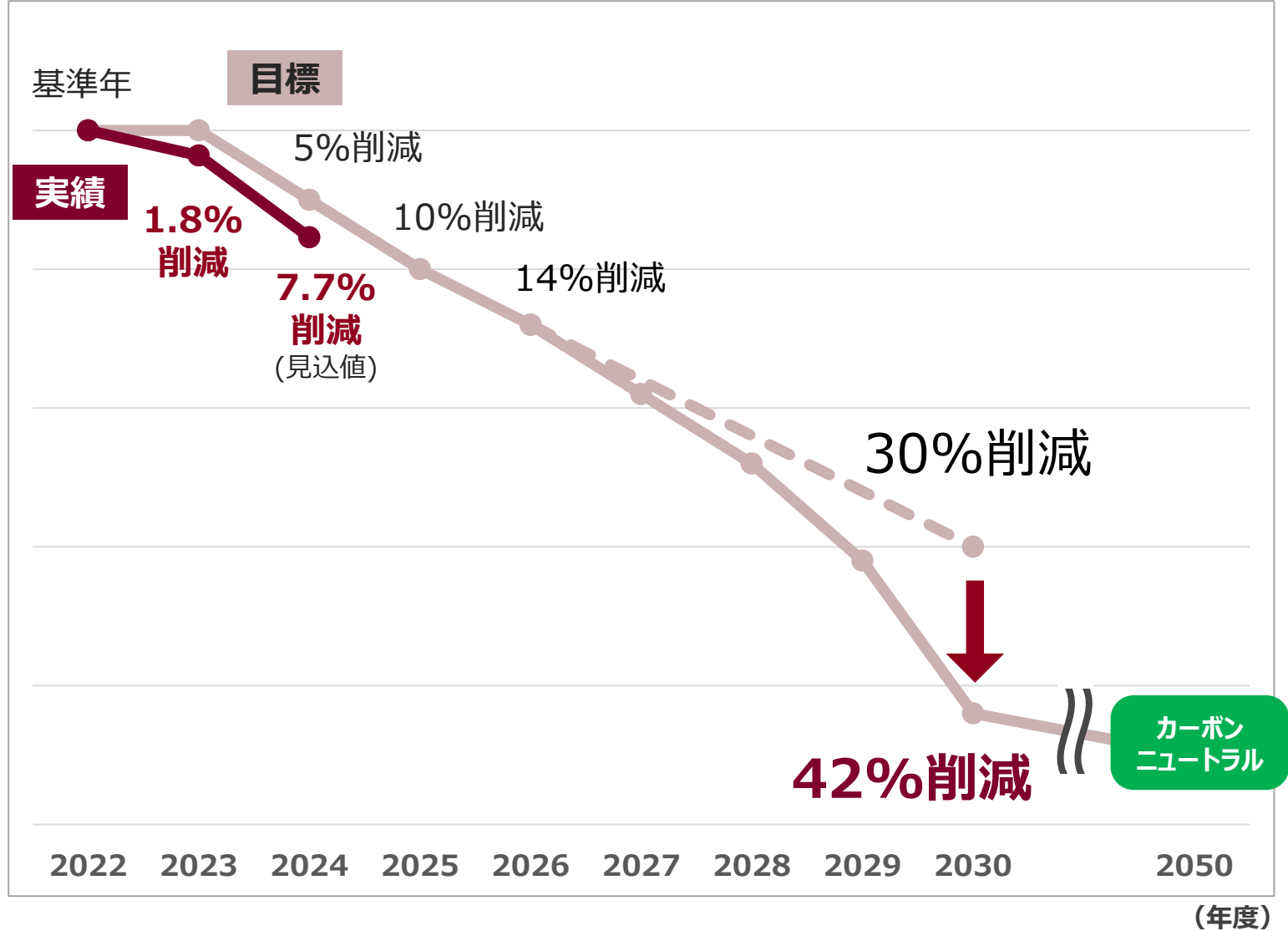
7-4. 中期経営計画の進捗（マテリアリティ 1/2）

		対象範囲	2027/3期目標	2025/3期実績
財務	(1)経済価値の提供	アイカグループ	売上高：3,000億円 経常利益：300億円	売上高：2,486億円 経常利益：286億円
			ROE：10%以上 ROIC：9%以上	ROE：10.1% ROIC：9.6%
			海外売上高比率：50%以上	海外売上高比率：48.0%
	(2)商品を通じた社会課題解決	アイカ工業	AS※商品の売上高：280億円	AS商品の売上高：241億円
		アイカグループ	主力商品の新たなリサイクル手法の開発	化粧板の廃材を活用したりリサイクルメラミン化粧板について、生産確立に向けて試作実施中。
非財務	(3)気候変動対応	アイカグループ	温室効果ガス排出量：14%削減 （2022年度比）	温室効果ガス排出量：7.7%削減見込 （2022年度比）
			スコープ3 排出量削減目標の設定、削減策立案	連結ベースでのスコープ3を算出開始、 2025年度中に実績値を開示予定
		アイカ工業	主力商品のCFP開示、CFP低減商品の開発	CO ₂ 固定ケイカル板の開発完了 将来、自社工場から排出するCO ₂ 固定に活用検討

※ AICA Solution商品の略。様々な社会課題を解決する商品

7-5. 温室効果ガス (GHG)排出量削減目標の引き上げ

■ GHG排出量(スコープ1+2) 実績推移と新目標計画



■ 2024年度実績

2022年度比 **7.7%削減**

- ・省エネ活動/高効率機器への変更
- ・燃料転換
- ・再エネ活用 (含 太陽光発電の導入) により、年度目標を上回る削減を達成

■ 2030年度削減目標の引き上げ

- ・パリ協定に掲げる国際基準である「1.5℃目標」に基づく水準
- ・挑戦的な新目標の元、取り組みを加速

旧目標: 30%削減(Well Below 2℃水準)
↓
新目標: **42%削減 (1.5℃水準)**

7-6. 中期経営計画の進捗（マテリアリティ 2/2）

		対象範囲	2027/3期目標	2025/3期実績
非財務	(4)人的資本経営の基盤構築	アイカ工業	労働生産性：22.8百万円以上/人	23.0百万円/人
			人的資本投資額：4年累計40億円以上	11.4億円（2年累計21.3億円）
			海外赴任経験者数：100名以上	累計86名
			新卒総合職女性採用比率：4年累計30%以上	25年4月入社 33.3%（2年累計30.7%）
			育休取得率：(男性)70%以上 (女性)100%	(男性)69.7% (女性)100%
		アイカグループ	エンゲージメントスコア：4.0ポイント以上	第2回アイカグループエンゲージメントスコア 3.97（2022年度：3.90）
	(5)DX推進	アイカ工業	自動化・省人化に資する設備投資額、情報化投資額 4年累計 10億円以上	3.1億円（2年累計5.3億円）
	(6)ガバナンス強化	アイカグループ	アイカグループ生産拠点で自然災害に対するBCP訓練実施 1回/年以上	アイカグループ全生産拠点で1回/年実施
		アイカ工業	サプライヤー向けサステナビリティ調査の定期的実施、 課題への対応	サステナビリティ調査において自己評価が低かった サプライヤーに対して、ヒアリングによる実態調査を実施
		アイカグループ	情報セキュリティへの対応深化 グループ全社への拡大・強化	ファイヤーウォール・VPNソフトの常時最新化を維持
	(7)品質保証、 労働安全	アイカグループ	アイカグループ生産拠点にて設定した品質目標 達成	国内は1拠点、海外は3分の2の拠点で達成
			重大な労災発生件数：0件 休業災害件数：10件以下	重大な労災発生件数：0件 休業災害件数：17件



アイカ工業株式会社

本資料に掲載されているアイカ工業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報からアイカ工業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみに全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。